効率的な森林整備と路網整備の実行
―森林の公益的機能発揮に向けて―

〈森林整備課〉

森林は国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の公益的機能の発揮に大きな役割を果たしています。また、近年では、森林に対する国民の期待や要請が、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育や木の文化の継承への貢献等、さらに多様化しています。

このような状況にある中で、公益的機能の高度発揮に向け現地の実態を考慮した適切な森林施業と、その基幹的な役割を果たす林道の計画的かつ効果的な整備は一層重要となっています。森林整備課においては、これらの業務について、各署等と十分連携を図り計画的な事業実行に努めています。

保育間伐実施後の状況

今年度の森林整備については、地球温暖化防止に係わる森林吸収源対策として約五六〇〇haの除伐・保育間伐を計画している他に、主要な事業として植付、下刈等の作業を現地の実情等を考慮し実施しています。特に、植付については、シカの食害防除対策として防護ネットや食害防止チューブ等の被害防止施設の設置を講じることで確実な植栽木の活着と健全な森林の育成に努めています。

また、森林病虫害の防除については、名勝地及び海岸防風松林等の松くい虫の被害対策として、地上から動力噴霧機などを利用して薬剤を散布する地上散布や薬剤を樹幹に注入して防除する対策を講じています。さらには、被害木を伐倒し、くん蒸処理を施して幼虫を駆除するなど伐倒駆除についても実施するなど被害の蔓延防止に努めています。

食害防止チューブ

シカ食害防護ネットの設置

薬剤の地上散布

一方、林道の整備については、森林の適切な整備や保全を行うため、投資効率や景観などに十分配慮しながら、他事業との連携を図りつつ、今年度八・五㎞の新設を計画するなど効果的な整備に努めています。また、整備に当たっては現地で発生する木材や土石を土木資材として活用することや間伐材等の木材利用に積極的に取り組んでいます。更には、四国森林管理局管内にある五二九路線、二一二九㎞の林道の維持管理について、安全に通行できるよう点検を行うとともに実態を考慮した適切な対応に努めています。

間伐材を利用した木製ガードレール

森林整備課においては、今後も森林に対する国民の期待や要望及び安全で快適な自然環境の保全に適切に対応する考えのもと、各署等と連携を深め、地域の状況に応じた効率的な森林整備とその基盤となる林道整備に日々努めてまいります。

なお、これらの事業については、局一階の森林ふれあい館において、一月十日から三十一日まで、パネル等で紹介しますので是非ご覧下さい。

技術開発課題に厳しい意見と期待
第二回技術開発委員会を開催

〈指導普及課〉

十二月四日、局において、今年度二回目の技術開発委員会を開催しました。

今回の技術開発委員会では、技術開発委員である森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家から、平成二十年度の中間報告（開発期間の三年目）課題である「保育作業の省力化による森林育成技術の確立」、完了報告課題である「地球温暖化傾向に伴うヤナセスギ等の成長促進効果の検証作業について」、平成二十一年度の技術開発重点課題となる二十年度中間報告と同じ「保育作業の省力化による森林育成技術の確立」の三課題について、技術開発の調査結果及び今後の進め方等について意見を聴きました。

委員からは「開発目的を達成するためには、調査プロットを増やす必要がある。」、「調査データは地形条件等にも影響されることから、プロット毎に条件等の違いをキチンと押さえていく必要がある。」、「プレゼンテーションに当たっては、説明する内容に沿った分かり易いものとする必要がある。」など、今後の進め方等に対する厳しい意見と技術開発課題への期待を頂いたところであり、今後の取組に活かしていくこととしています。

技術開発委員会の様子

「世界に一つシリーズ①」
～マイ「箸」づくり～
〈指導普及課〉

十一月二七日、高知西高等学校において、選択授業で「発達と保育」を選択している生徒十二名を対象に、森林教室、木工教室を実施しました。

家庭科講師から、「生徒たちに木工製作を通して、木に触れ楽しみながら、刃物の扱いにも慣れてもらいたい。」との依頼があり、また、家庭科の授業で箸袋を製作しているとのことであったので、マイ箸、箸置きづくりとなりました。

初めに、森林の働きと日本で使われている割り箸の現状を説明すると、マイ箸づくりに意欲が湧いてきたようでしたが、普段使い慣れていない刃物を扱うのは容易ではなかったようで、カッターナイフの持ち方にも戸惑い、「手が痛い。」、「腕が痛い。」と大騒ぎでした。それでも、ヒノキの角材が徐々に箸の形になってくると、夢中になっていき、一生懸命に木を削っていました。

マイ「箸」づくりの様子

完成したマイ「箸」セット

やがて、角材を削り終えた生徒たちは、荒削りした箸を紙やすりで丁寧に磨きながら、「木の良い香りがする。」とか、「ツルツルして綺麗。」と驚きの声を上げていました。

最後に、電気コテで名前を焼き付けると、「名前が入ったら、すごく愛着が湧く。」、「最初に何を食べよう。」と大喜びしていました。最初は全員完成するのだろうか…、と不安だった我々もホッと安心しました。

生徒たちが作った作品は、それぞれ個性があり、前回の家庭科の授業で作ったというオリジナルの箸袋と併せて、世界に一つのマイ箸セットができあがりました。

「世界に一つシリーズ②」
～マイ「クリスマスツリー・クリスマスリース」づくり～
〈指導普及課〉

十一月二九日、高知市にあるホームセンター　ハマート薊野（あその）店において、「大人から子どもまで自分で作るミニチェアクリスマスツリーづくり」と題して、木工教室を実施しました。

これは、同店から、枝や実など、木材製品としては流通されていない自然素材の有効利用の機会を広く一般に提供したいとして、当局に木工教室の協力要請があり、連携して実施したものです。

同店が事前にチラシで宣伝していたこともあって、木工教室の開始時間前から参加を希望する方が訪れ、子ども連れの親御さんや、大人の女性グループなど、延べ二十七組が参加しました。

完成したマイ「クリスマスリース」

参加者は、自分好みのクリスマスツリー、クリスマスリースにするため、普段使い慣れていない刃物の扱いに悪戦苦闘しながら、また、たくさんの素材を付けてきれいに飾りたいとの思いから、夢中になって作っていました。

参加者によっては、二時間以上かけて作った方もおり、世界に一つだけのマイ「クリスマスツリー、クリスマスリース」に満足して帰って行きました。

「国有林材ＰＲ月間」で記念市等盛大に開催される
〈販売課〉

十月～十一月の「国有林材ＰＲ月間」中の取組として、民間市場（高知県内外での記念市等）において、ヤナセスギやスギ・ヒノキの高齢級材を出材し国有林材のＰＲを実施しました。

木材については、依然として価格の低迷が続いており、なかなか上昇の兆しが見えない中で、秋口の木材需要期となり、各市場では、県産材の普及宣伝や利用拡大を図るため優良材を集め記念市（展示即売会）を毎年開催しており、四国森林管理局においてもＰＲ月間中の取組として、不振打開の一助になればとの期待を込めて出展しました。

高知県においては高知県林材で実施された「木材まつり」やゲンボク市場で実施された「ドライログ・優良材展示即売会」、徳島県・愛媛県・愛知県で開催された各記念市等にヤナセスギやスギ・ヒノキの高齢級の国有林材約二五〇〇㎥を出品し、国有林材の普及宣伝と併せて木材業界の振興発展に寄与しました。

また、高知県及び徳島県の記念市においては、共催者として育林技術の向上等に努められ、優れた民有林材を出品した者に対して四国森林管理局長賞の表彰も行いました。

今後益々優れた県産材として「ブランド化」を図るよう民・国・業界が一体となった取組を進めて行くと共に、国有林材のＰＲに努めていくこととしています。